

第1回（仮称）松江市幼児教育ビジョン検討委員会 会議録

1. 日 時 令和5年7月10日（月） 15時30分～17時00分

2. 場 所 松江市保健福祉総合センター2階 健康ホール2

3. 出席者

（1）委員（12名中、出席者12名）

高橋泰道委員長、浅野美和子委員、大西大和委員、国頭正久委員、佐藤淳委員、
坪内朋子委員、永島千津子委員、日野智子委員、松本啓介委員、やましたまほ委員、
横田航平委員、吉川悟司委員

（2）事務局

【教育委員会】成相和広副教育長

（学校教育課）後藤幸広課長、金山剛志教育指導官

（発達・教育相談支援センター）山本勉所長

【市民部】（人権男女共同参画課）村上幸人教育指導官

【こども子育て部】青木佳子部長、桑原賢司次長（こども政策課長）、

（保育所幼稚園課）池田真樹課長、（こども家庭支援課）峯彰子課長

（こども政策課）澤田真理子保育指導官、岡野敬祐こども政策係長、林縫子安心子育て係長、

竹内敦子主幹、秦昌子副主任保育専門員、宮廻晃江副主任保育専門員、

福頼美恵子副主任保育専門員

4. 傍聴者数 0名（報道関係者除く）

5. 次 第

（1）開会

（2）委員の委嘱

（3）こども子育て部長あいさつ

（4）委員紹介

（5）委員長の選出

（6）議事

こども政策課からの説明

・松江市の幼稚園・保育所・認定こども園等を取り巻く現状について

・（仮称）松江市幼児教育ビジョンの概要について

意見交換

（7）閉会

6. 会議経過

（1）開会

(2) 委員の委嘱

会を設置するにあたり、12 名に委員の委嘱を行った。

(3) こども子育て部長あいさつ

(4) 委員紹介

事務局より委員の紹介を行った。

(5) 委員長の選出

委員より立候補または推薦の申し出がなかったため、事務局より案を提示し、案のとおり承認された。

(6) 議事

・ こども政策課からの説明

本ビジョンの策定にあたり、関連する基本的事項について説明を行った。

・ 意見交換

小学校、幼稚園、保育所等に所属の委員には、各学校、園や所において、大事にしている取組や課題となっていること、組織として話題としていること等について、保護者代表・市民代表の委員には、理想の保育園、幼稚園等や、子どもの姿等について思われることや感じられたこと等について、それぞれの立場から話してもらった。

また、1. 幼稚園、保育所、認定こども園等で大切にすること（してほしいこと）、2. 目指す子どもの姿に向かって必要な経験、3. 保育者として大切なまたは（大切にしてほしい）資質および姿勢についても、意見があればあわせて話してもらった。

○小学校、幼稚園、保育所等に所属の委員から

- ・ 見たり、聞いたり、触れたり、感じたりする体験を通して、考える力と感じる心が育つことを願って日々の保育園生活を進めている。

この「幼児教育ビジョン」の「ビジョン」という言葉について調べると、「現在の積み重ねが未来につながる」ということも書いてある。私が、今何を保育で積み重ねているかという、やはり子どもたちが経験することだと思っていて、そのことを考えながら現在保育をしている。

このビジョンというのが、現在を積み重ねていった未来の、現在のこういったところがこういう未来に続いていくのかというところを、今から考えていくことはすごいことだなと思っている。今日は話を聞いて皆さんと一緒に考えていけたらいいと思っている。

- ・ 幼児教育では教科書がなく、それぞれがそれぞれに様々な体験をしている。とはいえ、年数とか条件とかそういったことを頭に入れて保育所の方がやっておられると、小学校の勉強になった時に、「あの時ああやったよね」というところに結びつくのかなと思う。

小学校でも、今教科書に書いてあることを覚える学習をしているのではなく、何かができるかだ

けの学習ではなく、その中で将来にわたって生きていく資質・能力を培っていこう、そういった指導をおこなっている。すべての幼児教育施設が幼稚園教育要領、保育所保育指針等に沿って、同じような方針で資質・能力を育てる方向になってきている。それを目に見えるような形にするのがビジョンではないかと思う。

幼児教育から小学校へつないでいくことに関しては、複数の園所から小学校に入学してくる現状があるので、そのつながりをきちんとするととなるとなかなか難しい。

そこをどうするかということもビジョンの話だと思っている。

- ・ もともとは園がある地区の土着の家庭が多いため、地域とのつながりも強く、自治会や寿会との交流が盛んで、地域の行事にも積極的に関わっている。

このところはコロナ禍で控えられていたが、昨年から地区の交番に協力してもらい、交通安全指導も再開してもらっている。また、地域の方々から畑を無償で借り受けてさつまいもを育てたり、牛舎を見学させてもらったりと大変お世話になっている。

他の方も「地域ぐるみで子育てをする」ことについて話されていたが、そういった取組も実践の中で行っているというような感じなのかなと思っている。

日々現場と関わっている中で、我々の目指す教育というのはなんだろうかと考えた時に、それは教えるというよりは主体的な学びによる世界を広げていくことを支援する営みではないかというようなことを話し合っている。

幼児教育とは何かというと、子どもが主体的に環境に関わる中で、遊びを通して総合的な学びの世界を広げていくことを支援していく営みではないかなと思っている。それが主体的・対話的で深い学びであり、個別最適で協働的な学びでもある。

幼児教育というものをもう少し広めに捉えた場合、0歳児からの愛着の形成、非認知能力を育む、自己肯定感を育てることなどが重要となってくるのではないかなと思う。

- ・ 実体験の大切さを感じ、今本当にやっておかなくてはいけないと思いながら日々の保育に取り組んでいる。

コロナになり、小学校以上の教育の中にもデジタル化が急速に進んできた。そのような状況において、子どもたちが汗をかいてドロドロになって遊ぶ中で体験を通して様々なことを感じたり考えたりし、それを友達と共有するというのが、今本当に必要だと考えている。

園では、地域の企業の協力で田植えや稲刈りなどもさせてもらっている。また、園内で野菜を育て、収穫したものを使ったクッキングなど、五感を使って体験できる形を取り入れている。

コロナ以前には、地域の方や卒園した家庭などに園の行事に来てもらっていたので、そういったことがまた再開できれば良いと思っている。

今、保育が必要でなくても園に通うことができるという、国の施策「こども誰でも登園制度」が始まるということが報道されているが、心配していることもある。保育が必要なところに園として力になればとは思っているが、今、乳児期からの親子の愛着の問題も重要な課題となっているので、そのところが必要なニーズと保育のサービスだけにならず、課題に対する対策も同時進行で行っていくことが必要ではないかと思っている。

家庭の保育力がどうやったら上がっていくかということも、教育のニーズと同時進行で行政にも

仕組みづくりをしてもらえたらと思っている。

幼小連携についても、コロナになってからはなかなか進めない状況ではあるが、自身の異なる地区の勤務経験から、地域によっても校区によってもやり方がいろいろ違うんだなと思った。

今後も地域の方との関わりを大切にしたいと思っている。

- ・ 幼児教育は学校教育の土台となるものだという考えのもとで、幼児期にどれだけ自由な時間がしっかりあり、一人一人に合わせた遊びが展開できるかというところを大事にして豊かな経験がたくさんできるように考えている。

私たちが子どもたちにさせるとか教えるとかというよりも、子どもたちの主体性を育て、可能性を伸ばすことが大事だと思っている。そのためにも、子どもたちが自ら心を動かすことができるようないろんな環境の仕掛けやきっかけ作りを日々考えながら保育をしている。

今年に入ってから、コロナで去年まではできなかったいろいろなことを再開し始めている。去年までは、学年ごとに活動していたが、今年に入ってから 0 から 5 歳の子どもたちが一緒に活動できるようになって喜んでいる。今年度はそのような異年齢の関わりを大事にしていきたい。

また今年は何年ぶりに PTA 総会を開催し、保育参観もすることができた。保護者が一緒に集まるということは、とても雰囲気がよくなる。保育参観の際には、各担任が立てている学級経営案をもとに、学級でこんなことを大事にしている、今こんなことをしている、といった遊びの裏側のところもしっかりと話をすることができ、またその後の学級懇談会では皆さんの話を聞くような場面も作ることができた。

園の教育・保育だが、保護者と一緒になって感じてもらう、支えてもらう、お家で子どもの話を聞いてもらうということがとても大事なことだと思っている。

地域とのつながりについても、また再開していくと思うので、やはり人とのつながりの中で子どもたちを育てていくということを今後も大事にしていきたいと考えている。

- ・ 園が公民館との複合施設ということもあり、公民館等を利用している高齢者や地域の方との交流を大事にしている。

コロナ禍でなかなか交流ができなかったが、最近はまだ、公民館の行事にも誘ってもらっているので、いろいろな世代の方とのふれあいの場をこれからもてるようになると思い、子どもたちと一緒に準備をしながら楽しみにしている。街中の保育所なので地域の商店街などもあり、そういったところに出かけて行き、子どもたちと歩いたりいろいろな方と触れあったりというようなことも、これからまたできるのではないかなと思っている。

先日は、園がある松江三中校区の幼稚園・保育所・こども園が連携する会の実行委員会が 4 年ぶりに開催された。この会では、地区の 7 か所園の代表が集まり、コロナ禍前に行っていた 5 歳児の交流会を再開しようと具体的な日程などを決めた。

交流会には小学校の先生方も招き、活動をみてもらうことにしている。複数の園が集まることによって、集団遊びができるなど、単独の小規模園ではできない活動をすることも楽しみにしている。

今、園では、子どもの主体性が育つにはどんな保育教育が必要だろうかということで、子どもたちがわくわくやりたくなるような環境を工夫することに取り組んでいる。

まずは、子どもたちが気づいたり、何だろう、どうしてだろうと考えることができるような環境

をあえて設定したり、全部お膳立てするのではなくて、子どもたちが見つけたところから活動を広げていく、つなげていくということを日々大事にしたいと思っている。

園は穴道湖が近く、秋になると夕日がとてもきれいだが、そのような松江市の象徴がある素敵なところで育っていく子どもたちが、松江市っていいな、うれしいな、楽しいな、生まれてよかったなと、大人になっても思ってもらえるように、環境も経験も積み重ねたいと思っている。

○保護者代表・市民代表の委員から

- ・ 教育関係者の皆さんの話を聞いて、本当にいろんなところで地域の方との関わりや連携を工夫されているというのがよく分かった。皆さんがともに描いている画は子どもたちの笑顔だったり、そこに松江の水辺があったりだとか、一緒なような気がしている。

先生が言われたように、教科書があるカリキュラムとないカリキュラム、そこがいろんな人がどう次につなげていくかというものも教育現場にあるのだな、と思い勉強になると思って聞いていた。

コロナが明けて、またいろいろな子どもの笑顔がいろいろなところで見られる時期になったので、このように皆で集まってよりいいものにしたいなと感じた。今ここにいない教育現場のすべての方々が、ここで作ったものを見ることができるようなものを作っていきたいと改めて思った。

具体的には、自分の分野は動画や写真などなので、園や小学校の教員の方、家庭の教育力にもつながるが、保護者や我々も見て、松江市の教育環境ってこうだよな、ということが広いエリアで共有できたらと思う。

何が力になれるかは分からないが、皆さんと楽しんで作っていきたいと思っている。

- ・ 子どもが通っていた保育所では、米作りや干し柿づくり、ゴズ釣りなど、地域の中で地域の資源をたくさん有効に活用していて、その活動を通じて、地域に子どもたちを知ってもらっている。

米作りでは保育所の年長と小学校 5 年生がペアになり、一年を通じて田植え、稲刈り、収穫を祝う会などの活動を一緒にしている。翌年は小学校の 1 年生と 6 年生になり、引き続き学校で 6 年生が 1 年生をかわいがってくれている。本当に自慢できるいい活動だなと思っている。

また、地域を挙げて子どもたちの活動を支援していて、特別支援に関する理解も非常にある地域だなと思っている。

自分の住んでいる地域の自慢ばかりしているが、やはりここに生まれてよかった、私たちがここで育ててよかったと思えるような地域になってほしいと思うし、松江市全体がそういった街になっていくことを願っている。

- ・ 全国的に見ても、島根は結構出生率が高い方だと思う。島根でも核家族化が進んでいて、両親二人とも働いていて、児童クラブなどに預けないと仕事ができない人がたくさんいる。また、シングルファザーやシングルマザーもたくさんいる。みんな朝早くから夜遅くまで仕事や子どもの世話、家事など、することがたくさんあり日々の生活が大変な人がいっぱいいると思う。

その中で、幼稚園・保育園が、あいうえおの勉強やおむつのトレーニングなど、また小さいことでもたくさんの経験をさせてくれて、そういったことがたくさんあると、親としては安心して感謝していた。

子どもたちの多様性を重視し、型にはめるのではなく、個人の意見を大切にしてもらいたい思い

がある。発言した際にも、まずその行動をほめてあげ、子どもたちには自信をもってもらい自己肯定感を高めてほしい。子どもたちにとって幼稚園・保育園・小学校は、様々な人や考え方に触れるところでもあると思うのでその多様性の中で子どもたち一人一人が、自分の興味のあることや好きなことを見つけ、将来に向けて得意なことを伸ばしていけるようサポートしてあげてほしいなという思いがある。

- ・ 体操教室を運営しているが、体操の素晴らしさを子どもたちに広めていきたいという意思をもってやっている。

体操のいいところは、やったことないことでも頑張ったらできるようになる、ということを体感できること。保育園に出向き、子どもたちに体操や体を動かすことの楽しさ、頑張ればできるようになることの喜びなどを発信させてもらっている。

皆さんの話を伺い、各園それぞれの素晴らしい考えをもって保育をされているが、園によって特色が異なるということも感じている。

子どもたちと関わる中で、危険なことはだめだからと最初からなんでも禁止にするのではなく、安全などに配慮した上で体験・経験させてみることも大切なことだと思う。運動においても同様で、危険だけれどリスクさえケアすれば、心の安定も手に入れられるし、生活のリズムも安定するなど、やることによるメリットが明らかに勝るものもある。

今回のビジョンの策定においては、かしこい体とか生活する力といったテーマの視点で、体育の視点から少しでも貢献できればと思う。

- ・ 幼保園の第1号モデルとして幼保園のぎができ20年近く経つ。当初は短時間保育が多くて、長時間保育が少ない状況だったが、現在はほぼ長児が8割を占めるようになった。それは保護者の働くスタイルが変わったということが大きな要因だと思う。

近隣の小学校では、この4・5年でいろいろな園から入学してくる子どもが多くなり、最初の友達づくりが難しいということをよく聞く。

公立幼稚園の園児数が減っている中、今後幼稚園をどうしていくのか考える時期が来たのではないと思う。松江市幼稚園 PTA 連合会が毎年要望書などを出す、改善されることはなく、要望内容はいつも大して変わらない。このようなプロジェクトが立ち上がったということで、今公立の幼稚園に子どもを通わせている保護者たちも、やっと何か動いてくれたような気がすると言われる方も多かった。

○各委員からの話についての意見等

- ・ 普段から映像を扱っている委員のお話が全部映像的で非常に面白いなと思った。今の子どもたちは非常に視覚優位で、話を長く聞くのはどちらかというと苦手だが、動画などから学ぶことはすごく得意だ。このことは、近年見られる非常に大きな変化だと思っている。

ビジョンが、見える絵とか視覚を活かした形で出てくるというのはおそらく有効なのではないかと思う。松江市総合計画とかもそんな形で作っていた。多くの人に広げていくことを考えると、誰も見ることが出来るもの、映像的なものというのは、表現の仕方としてとても有効なのではないかなと思った。

○その他（委員長より）

- ・ 委員の皆様からひと通り、今の実情、具体的にしたいこと、理想の園などについていろいろ話してもらった。それらが園や所として目指してもらいたいことになるが、幼児教育ビジョンの目指すところとイコールになってくると思う。

それぞれ他にも意見をもっておられると思うので、また今後の策定の折にいろいろとお話していただければと思う。また策定にあたって、現場の実際の様子、具体的な情報も必要になってくると思うので、ご協力いただきたい。

（７）閉会